



青空と緑の調和が素敵な店舗。「南向きで、家の前が開けていて雰囲気がとても良かった」と西村さん。井戸水が使えるのも決め手となったそうです。座ってお茶を飲みながらしゃべる人、たまたま一緒に居合せて話が盛りあがったり……。その人それぞれの、心地よい時間が流れていました。



初めてのお客さんも、いつもの常連の方にも、とても気さくに話しかける西村さん。会話から聞こえてくるパンの知識の豊富さに驚かされることも多々。話題に花が咲き、笑顔が生まれて。自然に接客に活かされているのは、西村さん自身のお人柄によるところも大きいのでしょう。



しまのぱん souda!

〒737-2213 大柿町大原 1637-1

Instagram

https://www.instagram.com/souda_pantabeyo/



◇ そうだ、イベントで会いに行こう！サンデーマーケット編 ◇



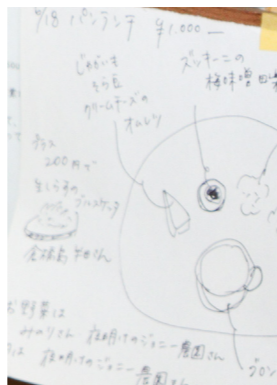
2023年6月の「サンデーマーケット（オリブラボ主催）」から。瀬戸内いとなみ舎の峰尾さんと一緒に。峰尾さんは江田島市地域おこし協力隊・オリブ栽培技術指導員として、西村さんとともにオリブ普及に尽力されました。協力隊卒業後も江田島市のために頑張っておられるその姿に、目頭が熱くなります。（オリブラボにて撮影）



イベント出店では持ち帰りに便利な個包装。お手軽サイズで、食べくらべもおすすめ。



この日限定で食べられるランチが大人気！おもてなしの心遣いが伝わる手描きメニューも味わい深いです。地元の食材をふんだんに使い、体に優しくおいしいパンランチ。旬の食材ばかりの贅沢盛りです。



ETAJIMA GoON!

Vol.27

しまのぱん souda!

にしむら きょうこ
西村 京子さん



10年以上話していたことを、みんなが応援してくれたから

オリブ普及員として、江田島市地域おこし協力隊に3年間従事。任期終了後、長年の夢のパン屋開業を、クラウドファンディングの併用で実現した。しまのぱん souda! は、2023年6月で、3周年を迎えた。

「皆さんのおかげで、本当にいつもありがとうございます」と西村さん。金土日だけの営業ながらも、入れ替わり立ち替わり、お客さんが訪れる。同じ町内から、四国など県外や、さらに遠くの海外からも。

「当初は市内の方が6割、市外は4割くらい。今は半々ですね」パンを選ぶ会話に、外国語や片言の日本語が聞こえることもある。宣伝ゼロの口コミだけで、町はずれの小さなお店へ。穏やかな語り口とその笑顔に会いに。取材中も客足が途切れない。

トマトや枝豆など季節のパンの他、カンパニーやブルンなど常連の方にはシンプルなパンが好まれる。今や定番のライ麦ひまわりパンは、クラウドファンディングから生まれた。返礼品で毎月送る季節のパンに、その月の物が無く、ひまわりの種でライ麦ひまわりパ



お店ができたのも人との縁も、地域おこし協力隊の活動あってこそと振り返る。一步一步成長したいと、『芒種』を開店の日に選んだ。おいしいパンを作り続ける。

目標金額を超えて達成したクラウドファンディングも「パン屋をやりたいと10年以上まわりに話してたから、皆さんが応援してくれただと思えます」と謙虚に語る。お店ができたのも人との縁も、地域おこし協力隊の活動あってこそと振り返る。一步一步成長したいと、『芒種』を開店の日に選んだ。おいしいパンを作り続ける。

（写真はハーフサイズ）
目標金額を超えて達成したクラウドファンディングも「パン屋をやりたいと10年以上まわりに話してたから、皆さんが応援してくれただと思えます」と謙虚に語る。



※芒種…穂の出る穀物の種をまく時期。二十四節気の一つ



ETAJIMA GoON! (えたじまゴーオン) とは？ 市内で活躍する人やお店をリレー形式で紹介。掲載された人が次の取材先を紹介する、“つなぐ・つながる”をテーマにした企画です。